

# 万葉図書・情報室だより60号

## 絵画を読む

博物館や美術館で、展示作品を前にして戸惑いを感じた体験はないでしょうか。特に、古い形式の絵は難しうに見えて、どこをどう見れば良いかわからないと思ったことがあるかも知れません。私たち現代人は小学校中学校そして高校と過ごすなかで国語の時間にあれほど日本文学の読解力は求められるのに、美術あるいは社会の時間に日本絵画の鑑賞の仕方が教えられないことはほとんどないといえます。

しかし、実際には絵画は多くの情報を持ち、さまざまなメッセージを見る者に発しています。現代では博物館や美術館で絵画や美術品を見ることが多いですが、博物館美術館はいわば日常と切り離された特別な場所。千年も前の絵画が今と同じ環境で存在して、今と同じ方法で鑑賞されていたわけはありません。絵画をはじめ美術品といわれるものは、かつて社会の営みや文化と密接に結びついた存在でした。しかし、時がたつと文化や環境も変わり、

絵画の意味や役割も分からなくなってきました。

では、目の前の絵画を読み解く術は残されていないのでしょうか。このことに対して先人たちは絵画を読み解く道標として、「図像学（イコノグラフィ）」と「図像解釈学（イコノロジ）」という方法論を確立しました。前者は絵画に描かれたモチーフの意味や由来を研究する学問で、後者はそれを発展させて作品の奥底にある歴史意識、精神、文化などを研究する学問です。

例えば、日本中世仏教絵画には仏典にある「四苦（生苦／老苦／病苦／死苦）」の場面を描くものがあります。そのなかで「死苦」がいかに描かれているかを見ると、二つの図像が採用されていることに気づきます。それは葬送の行列と死体です。ではこの二つの図像の区別は何によるのか？それは参照した経典が異なることに由来します。が、それで問題解決なのでしょう。むしろ図像解釈学はここからが始まりです。「葬列」と「死体」の図像は見る者にどんなメッセージを伝えているのか、どんな社会的文脈がその図像を選

ばせたのか。もちろん、このように読み解いていくには広く細かい文献研究が必要であり、ひとつにあてはまればすべてにあてはまるといった類いのものではないことを付け加えておきます。

最後に、図像学や図像解釈学の面白さを味わえる本を紹介します。《源氏物語絵巻》や《鳥獣戯画》など有名な作品を取り上げた『図像学入門 疑問符で読む日本美術』（山本陽子著、勉誠出版、二〇一五）は仏像から浮世絵までわかりやすく解説されています。さらに、図像を丹念に読み解くことで絵画に隠された時代背景や価値観までもあぶり出す『生老病死の図像学 仏教説話を読む』（加須屋誠著、筑摩書房、二〇一七）は、あまり知られていない仏教絵画にたくさん触れることができます。また、『絵の言葉』（小松左京／高階秀爾、講談社学術文庫、一九七六）は西洋美術も含めて、絵のメッセージをいかに読み取るかについて対談形式でまとめられており、時代や地域に縛られずいろんな美術について知りたいという方におすすめです。

一枚の絵に向き合うことは自分自身に向き合うこと、ひいては自身をとりまく社会をも見つめることにつながります。一枚の絵を通して、その背後に

存在する（した）人々の声を拾い上げること、それが絵を読むことの楽しさのひとつではないでしょうか。

（主任学芸員 染田英美子）

## ○新着図書案内○

☆図像学入門

（山本陽子／勉誠出版）

☆生老病死の図像学

（加須屋 誠／筑摩書房）

☆絵の言葉

（小松左京・高階秀爾／講談社学術文庫）

☆埴輪 古代の証言者たち

（若狭 徹／角川ソフィア文庫）

☆『扶桑略記』の研究

（扶桑略記を読む会／新典社）

☆平松礼二 睡蓮交響曲

（平松礼二／求龍堂）

## 利用案内

開館時間 午前10時～午後5時半

休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）

日・年末年始・展示替日

図書室のご利用は無料です

閲覧でのご利用になります。

コピーサービス 白 黒一枚 10円

カラー一枚 50円

奈良県立万葉文化館万葉図書・情報室

奈良県高市郡明日香村飛鳥一〇

0744-5411850（代）

